

# 大学沼:OB &現役部員合同トレッキングからの3つの考察

幹事： 川尻 哲夫(1970年商学部入学)

## 1. はじめに

- ・9月に発信しましたOB会のグループメール(以下、GM)とホームページ(以下、HP)にて、「合同トレッキングは無事目的を達成した」とのメール文と8枚の写真を速報版として公開しましたので、それらにて大体の様子はご理解いただけたと思います。
- ・ここでは経過報告を時系列で紹介することはあえて省略して、「考察」に重点を置いて記述してみます。  
(※行動経過表と参加者名簿は、後日、PDFにて添付します)

## 2. 考察

### (1) 61年前のOB達の体力・気力の凄さに感服しました。

- ・1962年当時の横浜・東京から大学沼までの経路と所要時間を推定してみると、以下のようになります。(私の時間計測と隊員・河合OBの記憶を元に多少調整しました)

① 上野⇒(国鉄)⇒青森⇒(青函連絡船)⇒函館⇒(国鉄)⇒札幌⇒(国鉄)⇒旭川

…単純に足して43時間となりますが、待ち合わせと宿泊時間を入れると

76時間となり、約3日間を費やします。

⇒現役2名と名和OBは、羽田から旭川まで飛行機で、約2時間弱でした。

青函連絡船（約2時間）



② 旭川⇒(上川町が用意したトラックの荷台に分乗)⇒作業員宿舎(現在の高原山荘)まで、推定6時間。

(当時は道路の舗装も十分でなく、荷台に乗っている隊員の衝撃を考えて、スピードを出せなかったと推定する)

⇒旭川からレンターでゆっくり行って、約3時間(昼食と上川町資料館見学時間を除く)

③ 作業員宿舎⇒(テント、食料、調査用具等を担ぎながら、木道・山道がない道を歩く)⇒大学沼まで、推定約6時間。

⇒現在は木道、山道、標識、地図等が完備しており、約2時間半。

**結論**…①、②、③を合計すると、調査隊は88時間で、61年後の合同トレッキング隊では7時間半となり、およそ10倍の所要時間がかかり、疲労度も桁外れであったことが推察できます。

ただ、大学沼に限らず、知床夏季縦走はさらに過酷な調査であったでしょうが、当時としては交通手段の不便さと過重な疲労度は当たり前の覚悟でOB達(今は全員83歳以上)は取り組んでいたことでしょうが、現代のOB(70代)と現役(20~22歳)は、素直に調査隊員に敬意を表したい。

特に、現役はこの経験を通じて、今後の活動に取り組むにあたり、人的繋がり、環境の良さ、経済的余裕の面でひときわ優位であるだけに、大いに優位点を活用して欲しいと願います。

### (2) 大学沼命名の市大説をどう後世に伝えるか、が最後の仕事として残っています。

- ・すでに大学沼の命名由来は、市大説を上川町役場が認めており、出羽OBが他大説の発見とそれを覆す資料収集と関係者との協議に、とてもなく尽力されたことに、今更ながら敬意を表します。
- ・ただ、それでOB会としての仕事が終了したわけではなく、これから第2ステップに入ります。
- ・別添に『大学沼の命名由来を、正しく、永久に伝えるための今後の活動計画案(略称:大学沼活動

案)』とまとめました。それを読んでいただければ、少なくとも 2 年を要することにご理解いただけることでしょう。既に当時の隊員で既にお亡くなりになっている方もおられます(寺島隊長、木村隊員)だけに、あと 2 年が私達に残された時間です。

- ・当時の隊員として参加された OB の方々は、どうかその活動に対して情報提供、資料提供、資金カンパ等のお力添えを心からお願ひ申し上げます。



上川町歴史資料館。洞爺丸台風で森林がなぎ倒されたことを伝えるジオラマの横で、地図が置いている場所に、1960 年代の開発の歴史を紹介する新たな展示物を置きたい。

### (3) 現役部員による大学沼の貴重な資料の発見に、驚きと感動を禁じ得ませんでした。

- ・8 月 21 日の GM でも伝えましたが、今回の現役部員の三村祐心(ゆみ)さんが、探検部の部室に 60 年以上眠っていた 2 点の資料を発見したことで、今後に取り組むべき(2)の活動に有力な“武器”になることを再度、お伝えします。
- ・一つは、当時の調査隊を記事として掲載した『4 新聞社の記事のスクラップ集』として、これこそ命名由来の市大説を裏付ける有力証拠であったのです。もう一つは、寺島隊長が撮影した写真と自筆の添え書きの『写真集』です。この二つは、(2)の活動においての「正しく、永久に伝える価値のある資料」になることでしょう。
- ・さて、私の驚きと感動とは、過去 60 年間、どの OB も存在を知らない、知っていてもその価値に気づかないでいたにも拘わらず、合同トレッキングのまさに直前、現役部員が薄暗い倉庫で発見したことです。まさに遺物の発掘とも言えましょう。
- ・これは単なる偶然で済まされない、何かの“巡り合わせ”ではないでしょうか? もしかしたら、今は亡き寺島隊長が天国から「現役部員よ。自分が残した資料があるから、それを公にして、活用しなさい」と三村部員にささやいたのかも知れません。
- ・もしも、大学沼での現役との合同トレッキングを実施しなければ、また何十年も倉庫に眠ったままか、最悪は廃棄になるかも知れません。

その意味でも、合同トレッキングの意義は大いにあった、と考えています。



以上